

外人は釣竿をかたげて川狩にゆくなかに、這老人のみは野山を經めぐりて蛇を數隻とり來り、是を按排して酒のみて樂みける、這人俗やう御家流の美筆にて、壯き頃は弟子をこばく有しが、斯る奇癖ある人なれば、竟に弟子もみな來らず、奈何なれば然やうに虫を好玉ふぞと問ければ、老人答て、世人獸の肉をさへ食する者あり、夫に合しては虫は大いに上品の者なりと云けり、寛政末のころ、六十餘歳にて死去す、同所熊野横町高德寺に葬す、

〔閑際筆記〕中 齊人詬食配膳ノ者ヲ叱ヲ好者アリ、食スル毎ニ、其僕ヲ詬必器皿ヲ壞ニ至、余○藤が相識所ノ一人モ、亦如此之要スルニ嗜味ノ致所ナリ、可不戒哉、

困 夢

夢ハ、イメ、又ハユメト云フ、夢ハ睡眠中ニ發スル精神ノ作用ニシテ、偶、前徴ヲ爲スコトアルニ由リ、古來夢ヲ以テ吉凶ヲ判セシコト尠カラズ、而シテ夢占ノ事ハ、方技部觀相篇ニ、夢告ノ事ハ、神祇部神託篇ニ、初夢ノ事ハ、歲時部年始雜載篇ニ各、其條アレバ、宜シク參看スベシ

名稱

〔類聚名義抄〕七

莫公反、又去也、ユメ、イメ、ミシニ、

〔同〕七 癡字 夢

〔伊呂波字類抄〕人事 夢 ユメ

〔干祿字書〕去聲 夢 夢 上俗 下正

〔萬葉集〕四 相聞 吹黃刀自歌二首

眞野之浦乃與騰乃繼橋情由毛、思哉妹之伊目爾之所見、略 下

〔萬葉集〕十五 竹敷浦泊之時、各陳心緒作歌十八首

安伎佐禮婆故非之美伊母乎、伊米爾太爾比左之久見牟乎、安氣爾家流香聞、略 中

中臣朝臣宅守與狹野茅上娘子贈答歌、略 中

於毛波受母、麻許等安里衣牟也、左奴流欲能、伊米爾毛伊母我、美延射良奈久爾、略 中